

さて いつまで続けられるかな？

(84歳のちょい書きおじさん)

「おじちゃん カブトムシの幼虫が親になってんで、オスやった」。お散歩道で突然の声かけにびっくり。15年ほど前から携わっている里山整備ボランティアの活動をしながら、そこにすむカブトムシを教材に実施している親子自然体験【カブトムシの産卵場所づくりから幼虫・成虫観察】。5月のイベントに参加してくれていた男の子らしい。その時に持ち帰って育てていた幼虫が、この夏、さなぎを経てオスの成虫に羽化して出てきた模様。嬉しくてしようがないという感じにこちらもホックリ。「もしメスも出てきたら卵を産ませて育ててまた聞かせてな」と言って別れた。そのあとはお散歩道の足取りがひとときわ軽くなっていたのは気のせいかな。

自分が子どものころ育ってきた田舎の里山でのいろいろな体験が、懐かしい思い出となって体に染みついているためか、今の子どもたちにも機会を作って体験させてやりたいとの思いからこのボランティアを続けている。

子どもたちには大人気のカブトムシ、毎回キラキラ目を輝かせて参加してくれる子どもたちにも手伝ってもらい、落ち葉や腐葉土を集めて作ってきた産卵場所に、ゴマ粒くらいの卵から孵化した幼虫、土の中で一度・二度と脱皮をしながらピンポン玉くらいの3齢幼虫に成長し、一冬冬眠した後、さなぎを経て毎年夏にはたくさんのカブトムシが成虫となって立派な角を突き上げて羽化してくる姿は、大人でもちょっと感慨深い対面となる。遊具やゲーム機も楽しいことなのだろうが、自然の中で五感を通していろいろ体感することで、自然環境の大切さや命の尊さに気づき、感受性の優れたところ豊かな子どもたちに育ってくれることを期待しながら続けている。

おじいちゃんを「おじちゃん」と呼んでくれたのはうれしかったけれど、そろそろ運転免許証の返納も考えると、外出へのフットワークも悪くなるだろう。カブトムシという生きた教材の助っ人を得ながら、長く子どもたちと付き合ってきたこのボランティアもいつまで続けられることやら…。



お～い どこにいるのや～？



見つけた！